『「使える」システムを作るために』

ネットワーク管理者を取り巻く人々　最終回

ある一大プロジェクト構築の裏側

首都圏の再開発において大規模ネットワークを担当する筆者が実際に顧客企業と接し、日々直面する「現実」を紹介する。前回までは機材選択の実際について話した。最終回では、機材選定の最終的なてん末と、計画してから実行されるまでのできごとを改めて振り返りたい。

機材選定については当初のプランからだいぶ外れ、ギガビットイーサネットベースの従来通りのネットワーク機材とトポロジーで決まってしまった。残念だがこれによってネットワーク整備に関する僕たちの仕事は終わった。本来ならここからネットワークの上で走るアプリケーションを実装する作業に取りかかるはずだった。しかしこの部分も社内の考えがまとまらない間に、期限だけが迫る。予算も確保されず、結局は当初の計画を1つも実現できることなく、僕は業務を終えてプロジェクトから離れることになった。

「予算」については何度かこのコラムで触れたが、この計画が進まない根本的な原因はお金ではない。

地域内にもれなくデータが転送できるように、隅々まで光ファイバー網を設計して敷設する。さまざまなネットワークサービスのプランを立て、それを元に必要と思われる帯域を算出し、それに見合った機材を選定して構築する。手順としては「あたりまえ」のこの作業が、今回の計画に参加し、順を追って進めれば進めるほど、そのあたりまえのことができない。

一番の原因はオーダーする側にそれを進めるための確固たるポリシーがないから。自分たちは何をしたいのか、何に向かうのかがはっきりしていない。結果、僕に来るオーダーも曖昧なものになる。

すでにシステムが稼働している場面でも似たようなことが起こる。ある会社でネットワークの配線を引き直すことになった。光ファイバーを引きたいというオーダーで配線設計と敷設の仕事だ。早速「ネットワーク担当者」と打ち合わせをした。

ファイバーを何本引きたいのか尋ねると「わからない」と言う。よくよく話を聞くと、ネットワーク設計すらしていない。だからつなげる機材も決められない。根拠となるトラフィックも予測できないし、ネットワークアプリケーションも把握していない。そして全体を把握する人が1人もいない。

配線する理由は「光ファイバーのほうが速そうだからとりあえずやっておこう」というだけ。この場合もオフィスの延べ床面積などからノード数を想定し、ファイバーの本数を決めて提案した。しかし今度は「予算がないので本数を減らしたい」と言う。

この話もそうだ。提案に対して客は「予算がない」「わからないからとりあえず必要ない」という言葉で本来必要であろうスペックから外れていく。結果客は「足りない」「あれもこれもできない」と言う。しかし決めたのは客自身だ。

使う人皆が便利なシステムを構築するには、オーダーする側の考えとポリシーがすべてだ。有名なシステムインテグレーターに声をかけ、有名なメーカーの機材を使ってネットワークを構築する。有名なパッケージを高いお金を出して購入してシステムを作ってもらえば、何かしらの効果が得られるだろうという考えはもうやめるべきだ。

繰り返す。「何をしたい」「どうして行きたい」それだけは考えてほしい。あとは僕らの仕事だ。

photo : Tsushima Takao

大原智哉（仮名）

ネットワークコンサルタント。夏休みがいよいよ12月に（?）取れることになり、早速九州の温泉を予約。寒い夏休みに向かって頑張る日々。半年間ありがとうございました。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.